

おかもときどうけんしょうじぎょう
岡本綺堂顕彰事業

だい かい かいだん
第5回こども怪談コンクール



文学創造都市
おかやま

ぶち ぶち

僕らは最高に怖い話を作ってしまったかもしれない

おうぼ かた
ご応募いただいた方には、
きねんひん
記念品をプレゼント!

こわい話はなし

さくひんぼしゅう
作品募集

たいしょう しょうがくせい ちゅうがくせい
対象：小学生・中学生

ねん
2026年

がつ 1 にち (げつ)
6月1日(月)

~ 7 がつ 27 にち (げつ)
~7月27日(月)

ひっチャク
必着

 勝央美術文学館
SHOO MUSEUM OF THE ARTS

800 字以内のこわい話。
800 じいない
はなし

求む。
もと

しんさいいんちよう
審査委員長
ひがしまさお
東雅夫

アンソロジスト
ぶんげいひょうろんか
文芸評論家

「ぶち」とは、岡山の方言で「すどく」「たいへん」という意味です。

主催：勝央町、勝央町教育委員会、
勝央美術文学館 岡本綺堂顕彰こども怪談
コンクール5周年記念プロジェクト
助成：公益財団法人 福武教育文化振興財団

ぷちぷちこわいはなしー僕らは最高に怖い話を作ってしまったかもしれないー

募 集 要 項

勝央町ゆかりの劇作家 岡本綺堂を顕彰し、怪奇小説作家でもあった綺堂にちなんで全国の小中学生の皆さんから「こわい話」を募集します。お化けや幽霊、妖怪、はたまた名も無い何か… 私たちとは違う怪しい存在たちが引き起こす不思議でぞっとするこわい話、お待ちしております。

対象

小学生・中学生

応募規定

応募作品は、日本語で書かれた800文字以内の作品で、本人が創作した未発表のもの、1人1点に限ります。AIを使用した文章は応募できません。

データでの応募に限ります。(※保護者による文字入力の補助は可とします)

ご応募はウェブ応募フォームからのデータ送信のみ受付します。

持ち込み・郵送は受付しません。

作品の最後に「おわり」の3文字を入力してください。

(※この3文字は作品には含まれません)

作品データを下記のウェブ応募フォーム二次元コードから、もしくは、勝央美術文学館ウェブサイト内のリンクから、ご応募ください。

【学校単位での応募について】※入賞後は、個人情報提供が必要です。

団体応募の様式(Excel)は当館ウェブサイトからダウンロードできます。詳細はウェブサイトをご参照ください。

賞

小学生の部・中学生の部、それぞれの優秀作品を表彰します。

◆特賞 各1名…賞状、副賞として図書カード1万円分

◆優秀賞 各1名…賞状、副賞として図書カード5千円分

◆入選 各4名程度…賞状、副賞として図書カード千円分

◆佳作 各4名程度…賞状、副賞として図書カード5百円分

※入賞作品を掲載した作品集を発行します。

受付期間

令和8年6月1日(月)~7月27日(月) 必着

発表

令和8年9月中旬(予定) 勝央美術文学館ウェブサイト上で発表

表彰式(綺堂生誕祭)

令和8年11月22日(日) 勝央美術文学館で行います。

注意事項

※入賞作品の著作権は、原作者と主催者に帰属します。

※入賞作品は、岡本綺堂顕彰事業に使用されることがあります。

※応募作品は、勝央町の出版物などに無償で利用できるものとします。

※選考についての問い合わせには応じられません。

※盗作・類似・流用等、著作権に触れるものやAIを使用したものは審査の対象外とし、表彰後でも受賞を取り消します。

応募方法

※データでの応募に限ります!

【ウェブ応募】 応募フォームはこちらから→

※二次元コードが読み取れない場合は、勝央美術文学館ウェブサイトの当コンクール

「作品募集のお知らせ」のページ内にあるリンクからご応募ください。

※応募者の個人情報は、コンクールの運営に必要な範囲内でのみ使用します。



岡本綺堂(おかもと・きどう)

1872年 東京・高輪生まれ。本名 敬二。幼い頃から漢詩や英語を学び、中学在学中に劇作家を志す。1890年、新聞社に入社。記者の傍ら劇評も担当した。1908年、二代目市川左團次の一座に「維新前後」を執筆。以降、左團次に多くの戯曲を書く。『半七捕物帳』・『青蛙堂鬼談』など、推理物・怪奇物も長く読まれている。後進の劇作家を育てるため、1930年、雑誌『舞臺』を創刊。1939年逝去。門下には大村嘉代子、額田六福ら多くの作家が出ている。最後の直弟子で勝央町出身の岡本経一(出版人)は養嗣子。

審査委員長



東雅夫(ひがし・まさお)

1958年、神奈川県横須賀市生まれ。アンソロジスト、文芸評論家。早稲田大学文学部卒。1982年より『幻想文学』、2004年より『幽』の編集長を歴任。2011年、『遠野物語と怪談の時代』で第64回日本推理作家協会賞を受賞。著書に『百物語の怪談史』(角川ソフィア文庫)ほか、編纂書に『文豪ノ怪談ジュニア・セレクション』(汐文社)ほか多数、監修した『怪談えほん』(岩崎書店)ほか。最新刊に、小泉八雲『八雲えほん』シリーズ(岩崎書店)『チゴインルヴァイゼン 百問怪異作品集』(平凡社ライブラリー)など。

「第5回こども怪談コンクールに寄せて」
ひがし 東雅夫
毎年、大きな反響を呼んできた「こども怪談コンクール」も、今年で第5回、いよいよ節目となる年を迎えた。
こども(=小・中学生)の考えた怪談なんて? どうせ子供だましろろろ……という大方の予想に反して、大人たちの手垢のついた「常識」では、思いもつかないようなユニークな「着想」の物語が目白押しとなったことが、この試みの何よりの注目ポイントだろう。
われわれ審査員も思いもつかないような、アツと驚く「発想」と「展開」と「結末」の物語が、今年もまた、多くのこどもたちから寄せられることを、願ってやまない。
かの「綺堂」先生が、その典型であるように、「恐怖」を感じ取る能力と「戦慄」を言葉にする能力に、こどもと大人の差は、ない。
この5年間が、われわれに教えてくれたのは、そのことだった……と、改めて思う。
今年もまた、新たな「恐怖」と「戦慄」が、多くの若き応募者たちの手によって、産み出されてゆくことを、期待したいと思います。

11/22 SUN 綺堂生誕祭 こども怪談コンクール表彰式
加門七海(作家)×東雅夫(アンソロジスト・文芸評論家)
記念対談 開催決定!! ※詳細は、後日発表いたします。
勝央美術文学館 公式ウェブサイト
〒709-4316 岡山県勝田郡勝央町勝間田 207-4
電話: 0868-38-0270(火~日) 10:00~17:00
E-mail: shoomuse@town.shoo.okayama.jp
http://museum.town.shoo.lg.jp